



令和5年度

地域の寺子屋推進フォーラム

報告書

- 日 時 令和5年12月17日(日)
(パネル展 令和5年12月14日(木)~20日(水))
- 場 所 高津市民館 大ホール
- 主 催 川崎市教育委員会

「地域の寺子屋事業」

川崎市教育委員会では平成 26(2014) 年度から「地域の寺子屋事業」を実施しており、すべての市立小中学校での開講を目指しています。

今年は、「地域の寺子屋事業」の開始10年目となる節目の年であり、これまで寺子屋に携わっていただいた、地域の皆様に感謝を伝えることを目的として開催いたしました。

立ち上げから現在を振り返りながら、これから展望について語るトークセッション、寺子屋の様子や子どもたちからの声をまとめたVTRの上映を行い、最後には市長・教育長から各寺子屋の代表者に、感謝状と記念品の授与を行いました。



現在開講している各寺子屋の学習支援や体験活動の様子をわかりやすく写真や文章でまとめていただいたパネルや、応募いただいた川柳をまとめたパネルを展示し、寺子屋関係者や会場付近を通行している市民の方などに御覧いただきました。

12月14日（金）～20日（水）の期間で展示を行い、当日は市長も足を止めて各寺子屋のパネルを見学していました。

今後、各市民館などでもパネル展を行い、広く市民に寺子屋事業について周知していく予定です。

■ 開会挨拶 川崎市長 福田 紀彦

今年は地域の寺子屋事業が始まって10年目という節目ですので、今日は寺子屋の活動に携わっていただいている全ての皆さんをできれば勞いたい、そしてお互いをたたえ合うという、そのような会にしていきたいと思っています。

私も市長になってから10年が経ちました。最初の市長選挙の公約にはいろいろ書いてあります、例えば中学校給食を導入する、あるいは、待機児童を解消しますという話もありました。おかげさまでそれらの公約は達成しましたけれども、それらは「意外と簡単」と言うと皆から怒られてしまいますが、予算を付けて進捗管理をしっかりとやっていけば、できなくはないのです。その強い意思があるかどうかということなのです。

しかし、寺子屋は、やってくださる地域の御理解と御協力なくしては一つもできない政策でした。ですから、本当に不安でしたが、皆さんのこの10年間の御協力のおかげで、今までで94校で立ち上げることができました。

まだまだ全校設置を目指していこうという段階ですが、それぞれに地域の事情というものがありますから、それぞれのペースで、自然発生的に増えしていくのが最も望ましい形で、学校や地域の事情はどれ一つとして同じということはないですから、いろいろなやり方があって、その全部が正解という形で進めていければと始まりました。私が最初にこのような形になったらいいなというものを、はるかに、はるかに超えて、素晴らしい取組が各寺子屋で行われていることを本当にうれしく思っています。

まだ今年立ち上ったばかりのところもありますし、これから立ち上がるところもあると思いますが、10年たつてさらに先の10年に向けて皆で努力して、支え合い、助け合いながらやっていきたいと思っています。今日はどうぞよろしくお願いします。



Program2 寺子屋川柳表彰式



事前に寺子屋に参加している児童生徒や、寺子屋コーディネーター、寺子屋先生から、寺子屋に関わる川柳を募集しました。

児童生徒の部 1,010 点、大人の部 231 点の応募があり、その中から 12 点の作品を入賞作品として表彰しました。

01 <児童生徒の部> 表彰式

■ 入賞者・寺子屋川柳入賞作品

寺子屋名	学校名・学年	氏名	川柳
寺子屋うめのみ	久地小・2年	鈴木 大翔 さん	寺子やの お楽しみめあてで しゅくだいすすむ
寺子屋かたひら	片平小・4年	阿部 真子 さん	木曜日 スキップしながら 寺子屋へ
渡田小学校寺子屋	渡田小・4年	池田 美桜 さん	寺子屋は 家族のように あたたかい
寺子屋いなだ	稻田小・5年	関戸 彩佳 さん	雨の日も 寺子屋いけば 晴れの日に
寺子屋あさお	麻生小・5年	中川 昇輝 さん	寺子屋の 楽しさもっと 広めたい
寺子屋西高津中	西高津中・1年	松浦 蒼太 さん	寺子屋の 人魅了する 温かさ

■ 川崎市教育長 小田嶋 満 総評



皆さん、入賞おめでとうございます。どれも素晴らしい作品で、本当に皆さんのが寺子屋を楽しみにして、寺子屋に来ると心が温かくなる、心がほぐれてくる、そのようなことが伝わってくる素晴らしい川柳だったと思います。

これからも寺子屋でいろいろなことを学んで経験して、もっともっといろいろな川柳をつくって、これからも皆に広めてくれるうれしいと思います。

02 <大人の部> 表彰式

■ 入賞者・寺子屋川柳入賞作品

寺子屋名	役職	氏名	川柳
川崎小学校地域の寺子屋	コーディネーター	西尾 喜明 さん	先生の 寿命を延ばす 子の笑顔
寺子屋東高津中	寺子屋先生	神田 長美 さん	寺子屋は 第二の家庭 笑顔咲く
寺子屋東生田	寺子屋先生	本多 正典 さん	わんぱくも お楽しみタイム おとなしく
寺子屋菅人（すげんちゅ）	寺子屋先生	新谷 由樹 さん	生意氣と 笑顔の技術は 二刀流
寺子屋わかたけ	寺子屋先生	戸倉佐智子さん	道で逢う かわいい会釈に はげまされ
寺子屋しらとり	寺子屋先生	禿 泰子 さん	帰り際 ここ学校ならなど つぶやく子

■ 川崎市長 福田 紀彦 総評

素晴らしい作品を本当にありがとうございました。子どもたちの「寺子屋が楽しい」と言っている気持ちと、寺子屋先生・コーディネーターの皆さんのが「子どもたちが来てくれてうれしい」という気持ちが、本当に呼応している作品の数々だったと思います。本当に愛が伝わってきました。これからも皆さん、ぜひお友達たちにも寺子屋の素晴らしさを伝えていってくれるうれしく思います。



寺子屋10年の振り返り

■ 本日のトークテーマ

司会 今年は、市長の挨拶にもあったとおり寺子屋10年目という節目のタイミングということで、これまで地域の寺子屋事業に携わった職員を含めた、川崎市長以下6名の方に、地域の寺子屋事業でこのようなことがあったね、という形でこれまでのことを一緒に振り返っていただいて、次の10年につなげたいと考えています。

登壇者	川崎市長 福田 紀彦	大谷戸小学校長 長嶺 裕介
	川崎市教育長 小田嶋 満	生涯学習部長 大島 直樹
	教育委員会事務局 教育次長 池之上 健一	地域教育推進課長 二瓶 裕児

市長  これまでの10年を振り返るということで、(寺子屋の)皆さま方に語っていただく機会は、これまでの地域の寺子屋推進フォーラムであったと思いますが、今日は事務局側の目線でどうだったのかという話をしたいと思っています。

長嶺先生は、10年前、指導主事として一番初めに寺子屋の事業に携わった方です。その方が今、大谷戸小学校の校長先生になり、当時の課長だった池之上さんが今、教育次長という教育長に次ぐポストになっています。寺子屋に関わったら皆偉くなるのではないかという変なうわさが立たなければよいのですが(笑)。

さて、教育委員会というのは、やはり学校教育を中心回ってきた部分があると思います。しかし、これから時代は、もっと生涯学習の領域、社会教育といった、学校教育だけではない世界も教育委員会としてしっかりとやっていくという時代だと思います。それは、地域の皆さんと一緒にということだと思います。

そのようなことを10年間やってきたわけですが、当時としては「寺子屋を全市展開していくと市長が言っているのはいいけれども、こちらは大変なんだよ」と思っていた教育委員会事務局の人たちは結構いると思うのです(笑)。その辺りも含めて、別に何も気にしなくていいですから、大いに語っていただきたいと思います。では、一番初めに携わったということで、長嶺先生から当時を振り返ってもらえますか。

■ 大谷戸小学校長 長嶺 裕介

指導主事として教育委員会事務局に赴任する前は小学校の教員でしたので、「一体何をするのだろう」と最初は本当に迷いました。当時、係長に片山さんがいらっしゃって、片山さんと2人で何とかしなければいけないということでした。何しろ地域の方に支えられている寺子屋ですから、まずは地域でやっていただける方を探さなければいけないということで、事務局にいるよりも、外回りをだいぶ一生懸命やっていた思い出があります。



市長 (寺子屋の)皆さんの中にも、今名前が挙がった片山さんと一緒にやったという方がいらっしゃるのではないかでしょうか。

長嶺さんが指導主事として、平成26(2014)年に寺子屋事業を片山さんたちと一緒に始めて、翌平成27(2015)年に池之上さんが課長になりました。時代を順に追っていかなければいけないものですから、次は池之上さんに少し振り返ってもらいましょう。

■ 教育委員会事務局 教育次長 池之上 健一

今御紹介いただいたとおり、私は2代目です。平成26(2014)年度に片山さんと長嶺先生が基礎を作った上で、平成27(2015)年度と平成28(2016)年度に当時の生涯学習推進課長、今は地域教育推進課に組織が変わりましたけれども、「ここでペースを落としては大変なことになる」というのが正直な気持ちでした。ですから、不安というのは、冒頭市長の挨拶の中にありましたけれども、地域の皆さんにどのぐらいお力を貸していただけるか、どのぐらい広がっていくか。「2番打者(私)がコケたら、3番、4番にもつながらない」と、ものすごくプレッシャーを感じながら毎日3人でよく話をしていたことが思い出されます。



そして今、94校というこの数字に、「おお、すげえな」と思います。当時、学校の先生方にとってはまだ「寺子屋がどのようなものだろう」という中で取組を進めていました。逆に、地域の皆さんの方が「やりたい」という気持ちが強いのを課長として実感していたのですから、学校の協力が得られるようにという思いでやっていました。「私たちは最後のグループでいいです」などと校長先生に言われながら、「何とかこれを広げないといけない」、「このような良い取り組みはないのだ」と自分自身も感じていました。

そのようなことを思い出しながら、次の3代目の課長に引き渡しましたので、当時覚えている方、何人か先ほど挨拶をしましたけれども、今後も引き続き、このような取組がさらに広がるように御協力いただければと思います。

市長

池之上さんが「プレッシャー、プレッシャー」と言うものですから、パワハラチックに思われると困るのでやめてくださいという感じですけれども(笑)。

2代目から、今度は3代目の大島さんに時代は移ります。最初、長嶺さんの時の平成26(2014)年度に寺子屋が8校立ち上りました。そして、池之上さんがいた平成27(2015)年度に9校、その翌年度には13校という形で、徐々に増えていきました。9校、13校と少しずつペースが上がって、大島さんに課長が引き継がれました。

■ 教育委員会事務局 生涯学習部長 大島 直樹



私は平成29(2017)年度から3年間、生涯学習推進課長を務めました。先ほどの池之上次長からの生涯学習推進課長の事務引継の際に、課の課題は数多あるのですが、やはり全小学校での寺子屋開講が一番重いミッションの一つということで引き継ぎました。

池之上次長がいらっしゃる時に、長嶺先生ともう1人、指導主事を付けていただいたところでしたので、「指導主事も増やしたので、どんどん開講数を増やしていくよ」という引き継ぎを受けたのを覚えています。

そのような中で、これは市長には大変申し上げにくいのですが、市長が2期目の市長選挙に出られる際に公開されたマニフェストの中に「地域の寺子屋事業、小・中学校への全校展開」という公約がありまして、あれ、中学校がいつの間にか増えているなど。その後に市長が当選されまして、では、中学校への展開は本当にどのようにしていきましょうかと。中学校への学習支援はどのようにやっていったらよいのか、どのような人たちにお願いしていくべきなのか、というのがすごく悩ましいところでしたが、先ほど御紹介があったとおり、今では全寺子屋94校中、23校が中学校の寺子

寺子屋10年の振り返り

屋として開講されています。

地域の中には、いろいろな御経験や職業体験、あるいはスキルをお持ちの方がたくさんいらっしゃいます。

そして、中学校の学習支援なども本当に円滑にやっていただいて、これだけ広がってきてています。今年また寺子屋事業の担当部署に戻ってきましたけれども、何年か空いている間にこれだけ増えていることが本当にすごいと思いました。

市長

僕もマニフェストに中学校まで広げてと掲げた時に、明確な打ち合わせがあるわけではなかったのです。でも、中学校もやはり展開しましょうと。しかし、小学校の寺子屋と中学校の寺子屋は間違いなく違うものですねと。選挙が終わってから結構ディスカッションをしてきました。

第一に先陣を切っていただいた学校の校長先生や地域の方がいらっしゃいましたが、そのちょうど少し中だるみの時に、大島さんが「プラス中学校も行くぞ」と言われて、大変な時期でした。

そういうしているうちに今度は教育長が、一度宮前区長になってから教育長ですね。それまで、ずっと学校の校長先生をやられていましたから、教育長になってもらうために、一度区の行政全般を見てもらつたほうがよいということで、宮前区長をやってもらいました。区長を2年間やってもらって、教育委員会の教育長として来ました。最初に教育長に言ったのが、やはり寺子屋です。学校の先生や校長先生にしっかりと理解していただけるようにと言ったことを覚えていますが、あの時どのように感じていたのか教えていただけますか。

教育長

今、大島部長からあったように、中学校での寺子屋開講という課題ができました。私も中学校の教員出身ですから、「中学校の寺子屋、えっ、どうしよう」というのが正直な想いでした。そして、教育長になつてすぐに幾つかのことで市長に相談にいった中の一つが、「市長、中学校の寺子屋を全校で開講するのはかなり厳しいと思いますが、いかがしましょう」ということでした。それで、今、市長からお話があつたように、「小学校とは全く違うということ、課題もあることは分かっているので、できるところから、その学校に合った形で少しずつやっていけばよい」と言っていただいて、ほつとしながら始めたのを覚えています。

それが、大島部長からもあったように、今では中学校の寺子屋が23校に増えています。私が教育長になる前まで、小学校を含めた寺子屋の数が47校でした。私が教育長になって今年が5年目ですが、それからまた47校が新たに開講しています。私が教育長になってからちょうどまた半分、倍になったということで、着実に中学校を含めて寺子屋が増えてきています。ちなみに、私が教育長になった1年目から、中学校の寺子屋先生向けの養成講座もスタートしました。

先ほどの寺子屋川柳の入賞作品でも、児童生徒の部では西高津中の生徒さんが、大人の部では東高津中と白鳥中の寺子屋先生が、それぞれ「温かさ」、「笑顔咲く」、「ここが学校なら」という形で、中学校の寺子屋の良さを伝えてくれたことを、とてもうれしく思っています。

市長

私も、南大師中の寺子屋へ視察でお邪魔しましたけれども、南大師中学校のOBの先生、あるいは南大師中学校を卒業した高校生や大学生が、寺子屋先生などという形で、皆学校に戻ってきています。寺子屋のサイクルが回り始めました。

ですから、寺子屋の中で世代間のバラエティーが多くて、高校生、大学生、社会人、そして教員OBが中学生の学習支援を行っています。それも、試験前になるとものすごく集中的にやってくれて、なかなか塾に通えないといったいろいろな課題のある子どもたちに対して、その地域に応じたやり方をやってくださっています。本当にすごいです。正直、公約で中学校までと書いた時の私には想像し得なかつぐらの素晴らしい取り組みが行われている中学校も出てきたことを、とてもうれしく思っています。とても感謝しています。

さて、最後のお1人、二瓶さんは現職の課長です。新しく地域教育推進課に組織が変わりまして、今、バリバリ寺子屋もやっているし、いろいろな課題があって、最近何でも二瓶さんに頼んでしまっています。大変だと思いますけれども、愚痴も含めて言っていいです。

Program3 トークセッション

■ 教育委員会事務局 地域教育推進課長 二瓶 裕児



ありがとうございます(笑)。諸先輩方の話を聞いて、プレッシャーが大きいと思いながらも話していきたいと思いますが、今ちょうど市長から、南大師中の寺子屋「みなみかぜ」に南大師中を卒業した社会人や大学生が寺子屋先生として戻ってきているというお話をありました。

市長が視察した際に私も同席していました、その時に寺子屋先生をしていた大学生、当時大学4年生だったのですが、その時に「私、先生になりたいのです」と言っていました。今、先生がすごく不足している中で、私は教員になりたいのですと。それを受け、私は「教育長、これだけでうちは採用試験100点ではないですか?駄目ですか?」なんて冗談を言っていたのですが、実は最近調べてみたら、今年度から東橋中学校で先生になっていました。寺子屋先生が川崎市の学校の先生になるという循環が生まれているのだなと名簿を見て驚いた次第です。学校の先生になりたいと言っていた学生さんが、寺子屋先生を経て、晴れて今は川崎市の中学校の先生です。

他の寺子屋さんにもこのような学生さんがたくさんいらっしゃるかもしれません、本当にたまたまお邪魔した「みなみかぜ」の学生さんが、本当に川崎市の先生になってくれてよかったです、うれしいなと思っています。

もう一つ、最近少し動きがあったものだけ報告したいのですが、昨年12月に川崎アゼリアで地域の寺子屋推進フォーラムを開催しました。そこに橋高校の校長先生が、教育長から「出てこいよ」と言われたということで出席されました。実は今、その橋高校で、地域のいろいろな課題を見つけ、自分たちでどのようにしたら解決できるかという「探究学習」という授業の中で、ぜひ寺子屋を取り上げたいそうです。昨年フォーラムに来ていただいて、高校生が寺子屋をやりたいです。

恐らく年明けになると思いますけれども、橋高校の近くの小学校や中学校の寺子屋に、高校の生徒さんが足を運んで、企画も一緒に考えていきたいというお話を、今いろいろなところで挙がっているそうです。ぜひ、どのような生徒さんが来る際には、(寺子屋の)皆さんに気持ち良く受け入れていただきたいと思っています。そのようなところから、また良い循環が生まれてくるのではないかと期待しているところです。

市長

高校生がそのようなことをやりたいと言ってくれているというのは、もう驚くほどのうれしい循環が出てきていると思います。

長嶺先生、一番初めに寺子屋をぐっと押し出すところから、寺子屋先生を経て学校の教員になる人まで現れました。どうですか。

校長

もう10年経ったということで、感慨深いです。うちの学校にも寺子屋があるのですが、昨年度、やはり寺子屋で教えていた大学生が教員になっています。本当に良い循環が生まれていると思います。

■ 川崎市教育長 小田嶋 満

本当にうれしく、ありがたいことだと思います。10年前と今を比べると、世の中が本当に大きく変わっています。

子どもたちも、今は1人1台GIGAパソコンを持ち、授業の形も変わってきています。社会の状況も変わってきていて、だからこそ子どもたちにはいろいろな体験や学びが必要で、寺子屋の中での学びというのはすごく大事になっています。その中で、このような循環が生まれてきているというのは、本当にありがたいことだと思います。



寺子屋10年の振り返り

次長

私も幾つか寺子屋が実際に活動しているところを見せていただきました。本当に子どもたちからパワーをもらっている寺子屋先生、そして、寺子屋先生から教えてもらっている子どもたち、このような恵まれた環境を川崎市でいつまでも続けていきたいと思っています。

寺子屋の活動を見に行った時に、私も寺子屋先生のまねをしてみようと思って問題をやってみたら、「あれっ、こんな難しい問題できねえ」と、正直そのような体験もありました。高学年になってくると割と難しい問題もやっています。ですから、日々の寺子屋先生の孫を教えるような感覚というのが、僕もそのような世代に近づいてきて、孫も生まれましたので、いつか家庭でも寺子屋先生をやっていきながら、地域の寺子屋のような活動に参加できたらと思っています。

(寺子屋の)皆さん、くれぐれも健康には気を付けて、子どもたちからパワーをもらって、また子どもたちにそれを教えてあげるという、そのような良い循環を繰り返していただければと思っています。

市長

まとめのような話になりますが、川崎市に3世代で住んでいる世帯というのが、世帯数で言うと約3%です。3%しかいません。独居というのは、高齢者もいますし、若者で1人暮らしありますけれども、これは45%ぐらいいるはずです。そして夫婦2人のところ、夫婦と子ども世帯などがいますけれども、夫婦で共働きという世帯が、この10年で本当にものすごく増えました。

冒頭言ったように、3世代で住んでいる世帯は、川崎市には3%しかいないのですから、その意味では、自分のおじいちゃん・おばあちゃんと住んでいるというところがほとんどありません。

毎年実施している寺子屋アンケートの結果では、子どもたちが「家人の人や学校の先生以外の大人と話すことができた」という回答が非常に多いです。話すことに対する喜びというものが、子どもにとってこれほどまでに強いのかということに改めて気付かされるとともに、そのような場ができている、皆さんのおかげで提供できているということに、もう感謝しかないと思っています。

今日の表彰式の中で紹介された川柳でも、いかに寺子屋が楽しい所で、ここが学校だったらしいのになどという作品がありましたら、それぐらい良い環境を皆さんで作り出していくといふことに、心から感謝を申し上げたいと思っています。

10年経つと、やはりやっている人たちも、私たちも皆そうですけれども、それぞれ年を取ってくるという意味で、どんどん新陳代謝も図っていかなければいけないという課題は、それぞれに思っていると思います。このような場を通じて、どのようなノウハウで新しい人材を引き入れてくるかということで、先ほどは高校生の話も出ました。今、各区にソーシャルデザインセンターができているのですが、多摩区でソーシャルデザインセンターを運営しているのは学生です。大学生です。それも、何かをやると200人でも300人でも集まっています。どのようにしたらそれほど学生が集まるのかと思うのですが、皆必ずしも多摩区に住んではいません。一握りしか多摩区に住んでいないのですが、面白いこと、意味のあることには、学生がどんどん呼び合って、集まって来ます。

僕ぐらいの感覚になると、そのようなことはあるのかと思うぐらい、少し変わってきています。人の動きも変わっていますので、寺子屋には、まだまだいろいろな可能性があると思います。ですから、皆でまた知恵を寄せ合って、寺子屋を盛り上げていきたいと思っています。

今日はこの6人で寺子屋の10年を振り返させていただきました。ありがとうございました。

01 感謝状及び記念品授与



これまで寺子屋の活動に携わっていただいた関係者への感謝の気持ちとして、各寺子屋への感謝状と記念品の授与を行いました。94校の寺子屋名を担当の指導主事が読み上げ、呼ばれた寺子屋の代表者が、市長から感謝状を、教育長から記念品を、それぞれ受け取りました。

02 寺子屋代表からの言葉

■ 渡田小寺子屋 宮越 隆夫 さん



あっという間の10年でした。始めた頃も、もう十分高齢者だったのですが、今ではもう立派な後期高齢者になりました。それでもこのように元気に活動できているのは、本当に寺子屋のおかげだと思っています。

寺子屋のイメージキャラクターをイラストレーターである娘が作ってくれましたが、私にとっては孫のようなものです。本当の孫はいないのです。でも、今は地域に孫がたくさんいる思いです。

今日も川柳に入選した子どもと参加しています。選ばれた句が「寺

子屋は 家族のように あたたかい」です。常日頃、私たちはアットホームな場で子どもたちを迎えるようとしてきました。そんな思いを素直に受け取ってくれたのかなと思いますが、今日はダブルで感謝状をもらった思いです。

振り返れば、私どもの寺子屋での体験活動には10年間で延べ3,630人の参加がありました。学習支援でも多くのお子さんを中学に送ってきました。私たちは、学校の先生のように上手に教えることはできませんが、ただ、寄り添つて応援することはできます。一緒に遊ぶことはできます。言ってみれば、「いるだけ支援」です。控え目な役ですが、少しは子どもたちの好奇心や学びの楽しさを広げてやることができたかもしれません。また、子どもたち自身が自分の力で成長する、そんな生きる力をそばにいて応援してきました。試験の点数のようにはっきりとした成果としては見えませんが、この10年間、小さくないということはよく感じてきました。

最近も保護者の方から、寺子屋の行事の後、お子さんがいろいろとお話をされるそうで、毎回楽しかった様子がうかがえて、「川崎市民で良かった」というメールを頂きました。皆さんも、どこの寺子屋さんでも、子どもたちや保護者の方からのさまざまな感謝のリアクションをもらっているのではないでしょうか。対応に悩んだり、良いことばかりではなかったりするかもしれません、それでも、やってきて楽しかったなと思います。

楽しみながら子どもたちを応援できる、そんな寺子屋が川崎にある。そんな思いで、これからももっともっと皆さんと寺子屋効果を全市で高め合っていきたい、そんな思いをお伝えしながら私からの感謝の言葉とします。ありがとうございました。

02 寺子屋代表からの言葉

■ 寺子屋井田中 竹井 斎 さん



宮越さんも一緒に活動しているのですが、地域教育会議というものが市内の行政区に 7 つ、中学校区に 51 あります。私はもう 20 年以上活動しています。寺子屋という市長の公約を見て、地域教育会議にもある意味、若干のプレッシャーが、（宮越さんに向けて）ありましたよね？

当時、私は中原区地域教育会議の議長という立場でしたので、なかなかハードルが高いなという印象がありました。まずは区内でネットワークを作ろうということで、生涯学習財団や市民館に呼び掛けて、少しでもやれそうな人を見つけたら、それを皆でお手伝い

していこうということで始めました。

その後、私自身もやったほうがよい、やるべきではないかという気持ちがありましたので、議長を交代するタイミングぐらいに、井田中学校の校長先生と話をして、井田中学校で寺子屋を始めました。

1 年目は、部活のない試験前の 3 日間しかできず、これだけしかできないのかと、がくぜんとしました。職員会議などいろいろあるので学校の中でできないという問題もありましたが、幸いなことに、2 年目からは町内会館を使って毎週月曜日にやることになりました。

寺子屋にどのように参加してもらえるかというのが、今でも難しい課題です。場所を変え、時間帯を変え、本当にいろいろなことをやってきましたが、たくさん来るかというと、残念ながらそのような状況ではありません。それでも、しぶとく、諦めないでやっていこうと思っています。

井田中の生徒は結構自分で勉強を進めていけるので、うまく居場所をつくってあげれば、何とか生徒が自分たちでやっていけると思っていますが、市内を広く見渡すと、不登校や貧困で困っている子どもなどがたくさんいます。「貧困は、見ようとしないと見えませんよ」とよく言われます。普段の生活をしているとなかなか目が向きませんけれども、そのように困っている生徒さんにも寺子屋に来ていただけるように、これからもいろいろやっていきたいと思っていますので、ぜひ皆さんも何か良い知恵があれば教えてください。

感謝の言葉とはなっていませんけれども、私のこれまでの活動を振り返りまして、感謝の言葉とさせていただきます。またよろしくお願いします。

Program4 各寺子屋への感謝状及び記念品授与

■ 川崎市長 福田 紀彦



本日はお忙しい中お集まりいただきて、本当にありがとうございました。そして10年、一番初めに立ち上げていただいたところから今年立ち上ったところまで、先ほどの感謝状と記念品の授与の際に、担当の指導主事が「心を込めて1校ずつ名前を読み上げさせていただきます」と感極まっていましたけれども、これは、(寺子屋)皆さまがどのような気持ちでそれぞれの寺子屋をやっていただいているのかというのよく分かるからだと思います。

私も感謝状を渡させていただいた時に、もう本当に心を込めて「ありがとうございます」とお伝えしたつもりです。便宜上、あの感謝

状は私と教育長の名前になっていますけれども、これは子どもたちからの心からの感謝の気持ちだと受け止めていただければありがたいと思っています。

私自身も、一番下の子どもが小学校6年生で、今年度で卒業という形になりますが、自分の子どもが卒業しても、やはり地域の子どもたちは自分たちの子どものように地域で育っていくという気持ちはこれからも変わらずにやっていきたいと思いますし、寺子屋に参加していただいている皆さんも、そのような気持ちでやっていただいていると思っています。そのような気持ちが子どもたちに確実に伝わっていると思います。

課題、問題点はいろいろあると思いますけれども、ぜひこれからも地域の子どもは私たちの子どもたちだという思いで、皆でより良い寺子屋をつくっていきたいと思っています。ぜひこれからもよろしくお願ひしたいと思います。本当に今日はありがとうございました。

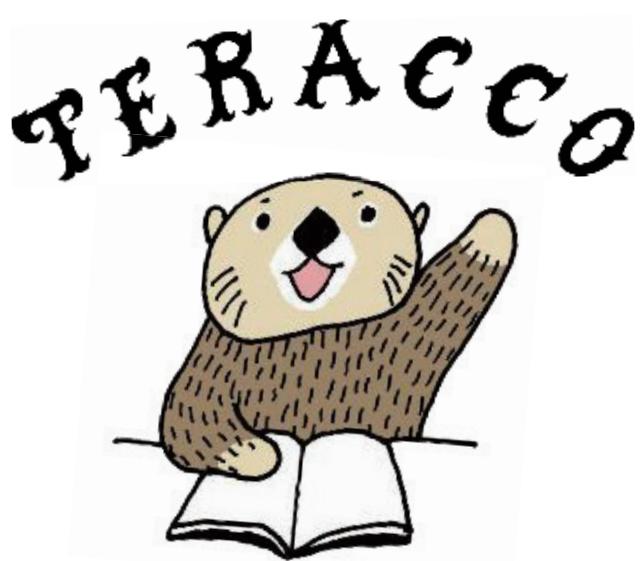
■ 閉会挨拶 川崎市教育長 小田嶋 満

本日は長時間にわたり「地域の寺子屋推進フォーラム」に御参加いただき、そして、日頃から子どもたちの支援をしていただき、本当にありがとうございました。

10年の節目ということで、ここ数年やっていたものとは違う形で今日は展開して、いろいろな思いを皆で共有できたことは、また明日からの寺子屋の充実につながっていくものと思います。どうぞこれからもよろしくお願ひします。

以上で令和5年度「地域の寺子屋推進フォーラム」を終了します。





令和6年 3月発行

教育委員会事務局 生涯学習部 地域教育推進課